

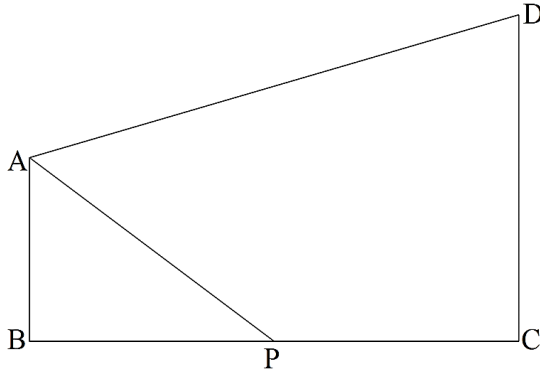
## 芸術的な高校入試第4回

美しさ：★★★★★★+

難易度：★★★★★★+

出典：2010年度 東京都立 新宿高校

下の図のように、 $AB < DC$ 、 $\angle ABC = \angle BCD = 90^\circ$  の台形があります。 $\angle BAD$  の二等分線が、線分  $BC$  と交わるとき、交点を  $P$  とします。次の問いに答えなさい。



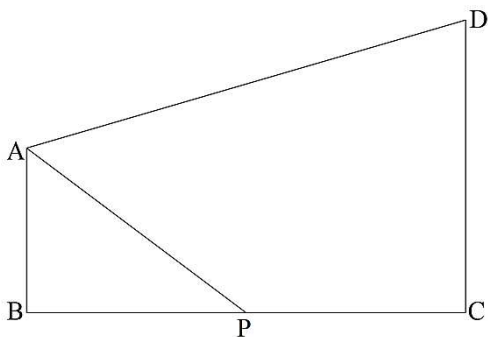
問1  $AB + DC = AD$  とします。

- (1) 点  $P$  は辺  $BC$  の中点であることを証明しなさい。
- (2)  $AB = 4 \text{ cm}$ 、 $DC = 9 \text{ cm}$  のとき、線分  $AP$  の長さを求めなさい。

問2 点  $P$  から辺  $AD$  に平行な直線を引き、辺  $DC$  との交点を  $Q$  とします。

- (1) 点  $Q$  を、定規とコンパスを用いて作図しなさい。ただし、作図に用いた線は消さないでおくこと。
- (2)  $AB = 4 \text{ cm}$ 、 $DC = 9 \text{ cm}$ 、 $BP : PC = 2 : 3$  のとき、線分  $CQ$  の長さを求めなさい。

<問2(1)用>



### 【コメント1】

基本的に都立入試の証明は、図の複雑さで難易度を上げています。ただ、複雑な方が、証明しやすかったりします。

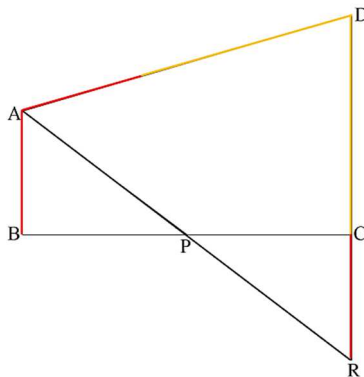
図が単純だと要注意です。これは問1(1)、問2(1)が出来れば、他も簡単ですが、逆に言えばこれらが出来なかったら厳しい戦いを強いられます。AB+DC=AD という条件がわざとらしいですが、何となく AB, DC を半径とする円が見えなくも……？ (解答例2)

### 【解答例】

問1

(1) (8点)

(解答例1 本来の解答)



直線 AP と直線 DC の交点を R とする。

$\triangle ABP$  と  $\triangle RCP$  において、仮定より、 $\angle ABP = \angle RCP = 90^\circ$  …①

AB//DR より、平行線の錯角は等しいから、 $\angle BAP = \angle CRP$ …②

AP は  $\angle BAD$  の二等分線なので、 $\angle BAP = \angle DAP$ …③

②、③より、 $\angle DAP = \angle CRP$  と、2つの角が等しいから、

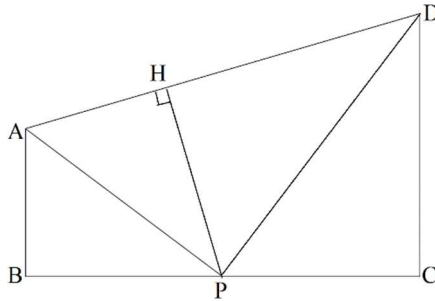
$\triangle DAR$  は  $AD = RD$  の二等辺三角形である。仮定より、 $AD = AB + DC$  また、 $RD = RC + CD$  であるから、 $AB = RC$ …④

①、②、④より、1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいから、

$\triangle ABP \cong \triangle RCP$

したがって、 $BP = CP$  であるから、点 P は辺 BC の中点である。

(解答例 2)



点 P から辺 AD に垂線を下ろし交点を H とする。

$\triangle ABP$  と  $\triangle AHP$  において、仮定より、

$$\angle ABP = \angle AHP = 90^\circ \cdots \textcircled{1} \quad \angle BAP = \angle HAP \cdots \textcircled{2}$$

共通な辺だから、 $AP = AP \cdots \textcircled{3}$

$\textcircled{1} \sim \textcircled{3}$  より、直角三角形の斜辺と 1 つの鋭角がそれぞれ等しいから、

$$\triangle ABP \equiv \triangle AHP \quad \text{したがって、} BP = HP \cdots \textcircled{4}, \quad AB = AH$$

$\triangle DHP$  と  $\triangle DCP$  において、

$$AD = AB + DC = AH + DH \quad \text{より、} DH = DC \cdots \textcircled{5}$$

$$\text{仮定より、} \angle DHP = \angle DCP = 90^\circ \cdots \textcircled{6}$$

共通な辺だから、 $DP = DP \cdots \textcircled{7}$

$\textcircled{5}$ 、 $\textcircled{6}$ 、 $\textcircled{7}$  より直角三角形の斜辺と他の 1 辺がそれぞれ等しいから

$$\triangle DHP \equiv \triangle DCP \quad \text{したがって、} HP = CP \cdots \textcircled{8}$$

$\textcircled{4}$ 、 $\textcircled{8}$  より、 $BP = CP$  だから、点 P は、辺 BC の中点となる。

(2) (5 点)

$AP = x$  とする。

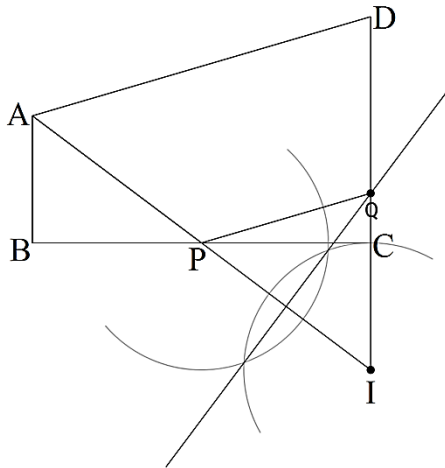
$$\angle APB = \angle APH = a^\circ, \quad \angle DPH = \angle DCP = b^\circ \quad \text{とすると、}$$

$2a + 2b = 180^\circ$  より、 $a + b = 90^\circ$  したがって、 $\triangle APD \sim \triangle ABP$  であるから、

$$x : 4 = 13 : x \quad x^2 = 52 \quad x = 2\sqrt{13} \quad \mathbf{2\sqrt{13} \text{ cm}}$$

## 問 2

(1) (5 点)



AD//PQ をどうにかして使えないか考える。平行線と線分の比を使いやすくするために、AP、DC を延長し、交点を I とする。 $\angle BAP = \angle DAP$ 、 $\angle BAP = \angle QIP$ 、 $\angle DAP = \angle QPI$  だから、 $\angle QIP = \angle QPI$  となり、 $\triangle QPI$  は二等辺三角形となる。よって、PI の垂直二等分線を引けば Q が求まる。

(2) (5 点)

$\triangle ABP \sim \triangle ICP$ 、相似比 2 : 3 より、 $CI = 6 \text{ cm}$

$DC = 9 \text{ cm}$  より、 $DI = 15 \text{ cm}$

$AP : IP = 2 : 3$  だから、平行線と線分の比より、 $DQ : QI = 2 : 3$  となるので、

$DQ = 6 \text{ cm}$ 、 $QI = 9 \text{ cm}$

$QC = QI - CI = \mathbf{3 \text{ cm}}$

## 【コメント2】

シンプルな図ですが結構良い難易度していますね。(1) さえ解ければ(2) は余裕です。先に(2) を解こうとして「どう補助線を引こうかな？」と考えたら、逆に(1) が解けるかもしれません。

## 【作成】

高校入試 数学 良問・難問 <https://hokkaimath.jp/>